

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

茶における害虫の発生状況と防除対策(技術情報第2号)について(送付)
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので業務の参考としてご活用ください。
記

4月の巡回調査においてカンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、ツマグロアオカスミカメ、チャハマキの発生が平年に比べて増加しています。
今後気温の上昇に伴い、さらに増加することが予想されますので、茶園での発生状況に注意してください。

1 発生状況

- (1) 4月の巡回調査におけるカンザワハダニの発生は、寄生葉率が17.0%(平年3.0%)で平年比多の発生であった(図1)。
- (2) 4月の巡回調査におけるチャノミドリヒメヨコバイの発生は、被害芽数が2.6/m²(平年0.2/m²)で平年比やや多の発生であった(図2)。
- (3) 4月の巡回調査におけるツマグロアオカスミカメの発生は、被害芽数が2.0/m²(平年0.7/m²)で平年比やや多の発生であった(図3)。
- (4) 4月の巡回調査におけるチャハマキの発生は、被害芽数が3.0/m²(平年0.1/m²)で平年比やや多の発生であった(図4)。
- (5) 4月の巡回調査におけるクワシロカイガラムシの発生は、寄生株率が6.9%(平年5.6%)で平年並の発生であった。
- (6) 福岡管区気象台が4月29日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高いもしくは平年並であり、チャにおけるカンザワハダニ及びチャノミドリヒメヨコバイの発生に好適な条件が続くと考えられる。

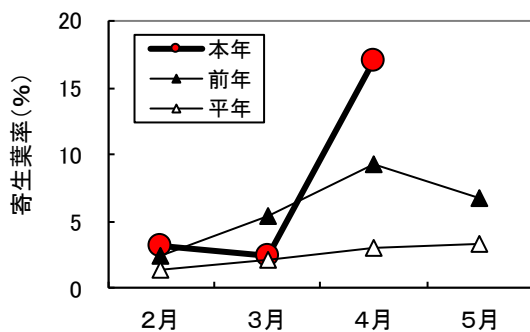


図1 カンザワハダニ寄生葉率の推移

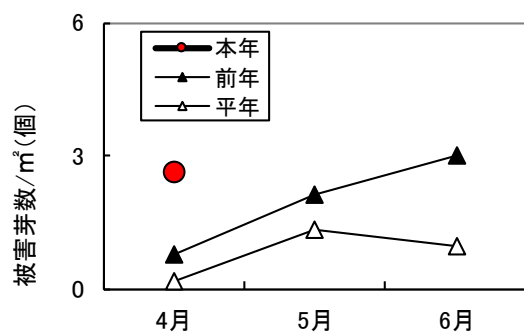


図2 チャノミドリヒメヨコバイ被害芽数の推移

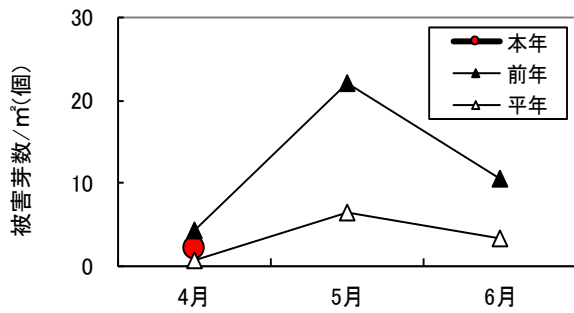


図3 ツグロアオカスミ被害芽数の推移

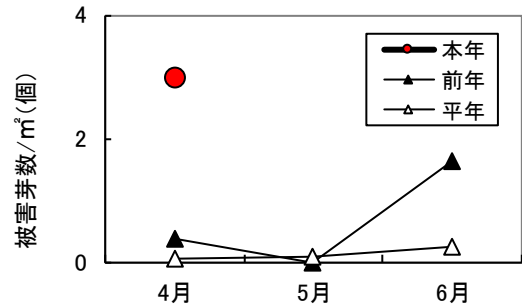


図4 チャハマキ寄生葉率の推移

2 防除対策

- (1) カンザワハダニは通常、二番茶生育初期から発生が多くなる。多発すると密度抑制が困難となるため、一番茶摘採後に発生状況を確認のうえ、低密度時からの防除に努める。薬剤散布の際には、すそ部及び樹冠内部の葉裏にも薬剤が行き渡るように十分な量(10 a あたり400リットル)を散布する。
- (2) 他の害虫についても茶園を見回り、必要に応じてそれぞれの防除時期に防除を行う。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。
- (4) 農薬を使用する際は、使用基準(使用回数や希釈倍数等)を遵守し、近隣のほ場へのドリフトの危険性を確認する。

また、天敵への影響を最小限に抑えるため、選択性の高い農薬の使用を心掛け、ミツバチや魚介類等、周辺動植物や環境に影響が無いよう、飛散防止を徹底し、危害防止に努める。

熊本県農業研究センター
 生産環境研究所 予察指導室
 (病虫害防除所)
 担当：岡島、作本 TEL : 096-248-6490